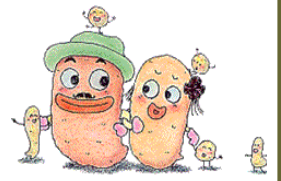


湯戸飛夜いけいけだより



Jinen Joe family

発行 西徳山まちづくりの会

記事:

- ・花いっぱい運動
「表彰を受けました」
- ・地元の団体紹介
「ソレーネと歩む会」
- ・連載小説
『涙にぬれた蒼き
思いー徳山七土物語ー』第13回
- ・駅前ピアガーデン
「まちづくり納涼会」
- ・今後の行事予定

花いっぱい運動 「表彰を受けました」

暑かった夏も終わり、秋の虫たちの声が聞こえ始めました。

夏のあいだ当番制で行った水やりもほっと一息ついています。

ほうき草（コキア）が今年も大きく成長しました。サルビア、ブルーサルビア、百日草、千日紅、マリーゴールドも色鮮やかに咲き誇っています。種から育てた花々です。

2年前に植えた芝桜も春にはきれいに咲きそろう、国道2号からも目に入ります。植え替えなくてもいいという思いつきで植えた芝桜も草取りに手をとりますが、戸田駅になくはならない景観になりそうです。

『戸田駅を花の駅に』というまちづくりの会のスローガンのもと、月2回集まって、自分のできる手伝いをしながら、にぎやかに作業をしています。

もちろん、会員以外も参加自由です。

最後にちょっとうれしいことをお知らせします。

去る7月31日、光市総合福祉センターあいぱーく光で開催された周南健康福祉センター管内快適環境づくり連絡協議会総会において、『清掃美化優良団体』として会長表彰を受けました。また、令和元年度周南市花壇コンクールにおいては『奨励賞』をいただきました。花育ての励みになります。ありがとうございました。

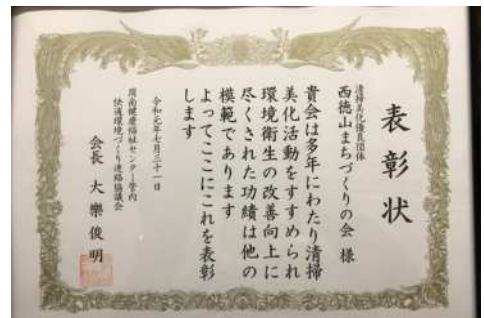


会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時、会員を募集しています。

E-mail :

nishitokuyamamatizuk
urinokai@gamail.com



地元の団体紹介

「ソレーネと歩む会」

平成20年、周南市西部道の駅実証店舗運営協議会が設立され、農産物直売所とれたて市場「ゆーとぴや」がオープンしました。この時に周南の道の駅に向けて運営協議会の役員として、出荷方法、アンケート、イベント、出張販売等様々な活動が契機となり、平成25年に道の駅ソレーネ周南がオープンした際に、実証店舗運営協議会のメンバーで道の駅とともに歩んでいこうと立ち上げた自主組織です。

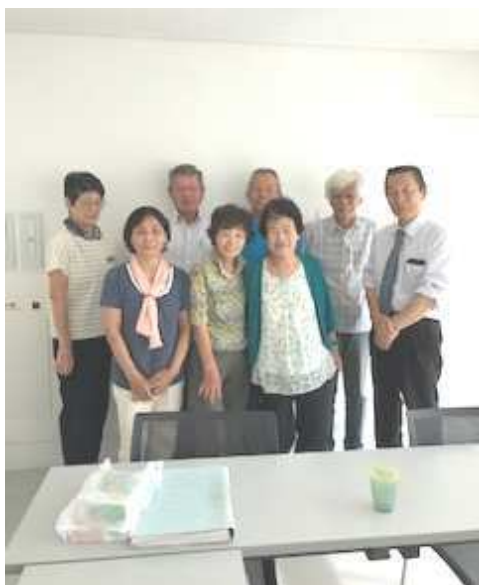
活動としては、1ヶ月に1回、会議を開き、春の周年祭、秋の収穫祭では、地元野菜を使ったカレーやちゃんこ鍋、焼き芋で行事に参加しています。また、道の駅の特産品づくりではさつまいもの「シルクスweet」の出荷規格を作り、生産、出荷して

います。シルクスweetの焼き芋は今ではソレーネ周南の冬の定番になっています。

また、かぼちゃ「銀河」は試食会を開き、ほくほくの食感を味わってもらっています。もう一つの売りは冬至まで食べることができることで、今、人気です。

そして市に対しては遊具他の要望書を提出し改善を図ります。皆で先進地の道の駅の視察にも出かけ刺激を受けています。

この会の一番の目的は、ソレーネ周南の消費者と出荷者とソレーネ周南の架け橋となり、皆に愛され、多くの人々で賑わいそして進化する道の駅であってほしいと願いながら、ソレーネ周南と一緒に歩んでいきたいと思っています。



河村副会長と山本会長



かぼちゃ「銀河」



さつまいも「シルクスweet」の焼き芋



連載小説

『涙にぬれた蒼き思い—徳山七士物語—』 第13回 文 城山 耕柝

(これまでのあらすじ)

京都で長州藩が大敗、朝敵となると、徳山藩でも野上家老を中心に、尊王攘夷活動をしてきた徳山七士の取り締まりが始まった。8月に江田市之進と小坂次郎佐が暗殺され、10月に河本源蔵と井上唯七が斬首による刑死となり、残る大城清、浅田又之丞、本田久太夫も浜崎の牢獄に収監された。

11月4日、広島に布陣している征討軍から長州藩に、「三家老の切腹、四参謀の斬首、三条実美をはじめとする公卿の追放」が指示された。この知らせは、早馬で徳山藩主毛利元蕃（もうり もとみつ）にも伝った。

「萩からの知らせだ。澄泉寺におられる国司殿、総持院におられる益田殿に、切腹の命が下った旨を知らせよ。」と元蕃から家老の野上に指示が出た。

澄泉寺にいる国司信濃に切腹の命が下った旨が伝えられると、国司信濃は、「ご住職、私は藩の責任を負う栄誉を受けました。この体を預けることで、わが藩が受けている朝敵の汚名をそそぐことができるなら、喜んで命に従いましょう。庭先を汚すことになりませんが、どうかご勘弁ください。」と潔い覚悟を口にした。11月11日、白装束の国司信濃が庭先で作法に従い、辞世を詠む。「よしやよし 世を去るとても 我が心 御国のためになほ尽さばや」「君がため つくせやつくせ おのがこの 命一つを なきものにして」。2首詠むと、清められた刀を己が身に向け、勢いで及んだ。徳山藩主が託した名刀により介錯され、頭部はすぐに保管された。享年23歳、家名に頼らず、実力で家老に就いた聡明な志士がこの世を去った。

総持院にいる益田右衛門介は、切腹の命が下ったことを聞くと、「心残りは、京都での戦いで我が隊の全兵力を戦いに向けなかったことだ。」と口にした。11月11日、住職の配慮で設けられた庭先に白装束で現れると、作法に従い動作に入った。徳山藩主から託された名刀により介錯され、幕府に差し出すために頭部はすぐに保管された。享年32

歳、長州が誇る名門の家老が世を去った。

徳山藩主の元蕃は、実兄である福原越後の切腹について、涙を流し「岩国の龍護寺に、切腹の命を伝えよ。」と家老の野上に指示していた。11月12日、福原越後は龍護寺の庭先に白装束で現れると、「これで良い。藩存続のため、私の命を弟たち（徳山藩主毛利元蕃、萩藩主の養子毛利元徳）に託す。」と口にすると、孝明天皇のおわす東に一度身に向けた後、行為に及んだ。徳山藩主が託した名刀で介錯されると、頭部はすぐに保管された。享年50歳、領地では誰からも慕われていた名君が、この世を去った。

萩では、蟄居禁門を申し付けられていた宍戸左馬介、中村九郎、佐久間佐兵衛、竹内正兵衛の四参謀が野山獄に移された。斬首の藩命が伝えられると、日をおいて四参謀は刑場に移され、刑が執行された。幕府に差し出すため、頭部は保管された。

11月16日、三家老・四参謀の頭部が征討軍の陣営に届き、検分が行われた。幕府の体面はこれにより保つことができたため、征討軍は解かれることになった。

(以下次号)



西徳山まちづくりの会

編集後記

20数年前になるだろうか。西徳山まちづくりの会が発足して、戸田駅を花の駅にしようとの思いで、花壇の手入れや駅前広場の清掃作業に精を出してきた。

駅前花壇の端にクリーンネットワークの小さな看板があるのをご存じだろうか。周南市と締結をしたもので、花の種や苗、そのほかに掃除道具などの提供を市から受けるものだ。

今では、私たちの活動の主なものになっている。

長年コツコツとやっていたら、見てくれている人はいるもので、市の環境衛生連合会から表彰をいただいたことがある。また、国体の時の花いっぱい運動で、県表彰も受賞した。そして今回、周南環境保健所からの表彰である。そのうえ市の花壇コンクールで、奨励賞までも受賞することになった。

まさに継続は力となる。この先もまだまだ戸田駅前の花壇の手入れは続く。「今度の旅行はどこに行こうか。」などとおしゃべりをしながらの草むしりは楽しいものである。

水やり当番や草刈り作業など、お疲れ様です。

発行責任者

会長 神本康雅

広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページURL:

nishitokuyama.web.fc2.com

駅前ピアガーデン 「まちづくり納涼会」

去る7月27日(土)正午から、戸田駅前ピアガーデンを開店しました。参加者は、会員12人、一般参加が2人の14人でした。

朝から晴天で暑い中、サザエのつぼ焼き、イカ焼きなどを食べ、キンキンに冷えた生ビールを飲みながら、皆で楽しく盛り上がり、暑い夏を乗り切るスタミナを充電しました。

また、この10月には、秋の味覚を愉しもうと「秋覚祭(しゅうかくさい)」を戸田駅前広場で開催します。

日時 令和元年10月12日(土)

12時00分~14時

皆様のご来店をお待ちしております。

店主敬白



今後の行事予定

西徳山まちづくりの会全体会

原則として毎月第1水曜日の19時30分から夜市市民センターで行っています。

戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。

お手伝いしていただける方、大歓迎です。